

障害者施設がヒット商品

鳥取県内の障害者支援施設で作られた商品が好評だ。障害を理由に妥協はできないと市場競争力のあるヒット商品が相次いで生まれている。全国展開や海外を視野に入れる施設もある。ただ、残す課題は多い。

(西部本社・田村彰彦)

米子市淀江町の「リ」などで商品を開発。利用者とて、今月中旬、用者も販路開拓に動いて追われていた。大5倍となった。

山町沖で採れたばかりの天然ワカメを、大山の伏流水で丁寧に洗った。約2日間かけて低温で乾燥。袋詰めも手作業で行った。

「本当においしいと思える味を届けたい。利用者の女性(45)が話す。添加物を使わないが、ほんのりと塩味がするのが特徴だ。全国から注文が相次ぐ人気ぶりという。

プライド持って

地元の漁協や漁師と提携しワカメや白イカ

話題を追う

全国展開や海外も視野 低賃金、人手不足 課題も



なプライドを持つて働いている」と話す。

並べるたびに売り切れ、今後は首都圏の環境中野町の「F」出荷を視野に入れた。&Y環境では、「コマツナ」などの有機栽培に科学的な手法で取り組む。畑の土壌を分析し、養分などのバランスを調整しながら肥料を施すことで、作物中の栄養素を増やす。

「採算性は低い」と広江管理者。F&Y環境では、収量を増やすための資機材やハウスを購入する資金が足りないという。工賃は最も低い賃金の3分の1程度だ。

「障害者優先調達推進法」で義務付けられた調達方針を、昨年末までに県内全19市町村が策定した。県は「働く環境は少しづつ改善している」と説明する。しかし、現場の充足感はない。

「障害者就業・生活支援センター」(米子市)によると、県内施設が商工会といった業界団体に入会するケースも少なく、企業とのつながりは薄い。浜田和弘センター長は「企業との共同開発や情報交換などの機会を増やさなければならぬ。事業所も地域経済の一員として社会の中でチームワークを築いたとき、真の地方創生の姿が見えてくる」と話す。

真の地方創生

栽培の厚みがあり、甘みが深い。日持ちもする。県内スーパーに障害者の工賃は月額約

1万7千円で、7年前より56%増。支払われた総額は倍増した。施設から優先的に商品を買おうと求める。長光事務局長は「福祉」で義務付けられた調達方針を、昨年末までに県内全19市町村が策定した。県は「働く環境は少しづつ改善している」と説明する。しかし、現場の充足感はない。

「障害者就業・生活支援センター」(米子市)によると、県内施設が商工会といった業界団体に入会するケースも少なく、企業とのつながりは薄い。浜田和弘センター長は「企業との共同開発や情報交換などの機会を増やさなければならぬ。事業所も地域経済の一員として社会の中でチームワークを築いたとき、真の地方創生の姿が見えてくる」と話す。

乾燥ワカメを袋詰めにする施設の利用者ら。米子市淀江町のリウよ

リウよえでは、少ない職員で障害者のアや商品管理、事務作業などに対応しなければならぬ。苦労もある。長光事務局長は「福祉」で義務付けられた調達方針を、昨年末までに県内全19市町村が策定した。県は「働く環境は少しづつ改善している」と説明する。しかし、現場の充足感はない。